

茅ヶ崎同盟教会 教会学校だより

2005年度年間暗誦聖句 (こどもさんびか2番)

この水をのむものはだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水をのむものは、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちでいずみとなり、えいえんの命にいたる水が、わきあがるであろう。

ヨハネによる福音書4章13～14節

2005年度教会学校だより春の号をお届けします。本年度も11名の教師でみなさんといっしょに聖書を学んでいきます。昨年同様に小・中高合同礼拝となりますが、楽しい分級を目指しております。この1年間みなさんよろしく願います。さて春の号は先生紹介号です。各先生のプロフィールが詳しく描かれています。お楽しみ下さい。

〔幼・1～4年科〕

稲津悠紀 (いなづゆき)

教師一同で撮った写真(悠紀さんのラブラブ旦那さまが写して下さった)を見て、我が家の息子が一言「このヒンシのとなりは誰？」...ヒンシ 瀕死の白鳥 皆さんこの芸見たことあるよね！ そうです。悠紀さんのお得意の瀕死の白鳥です。うちの息子は部活やら何やらでこのところすっかり教会学校をご無沙汰していますが、それでもたった1回見た悠紀主演の「瀕死の白鳥」が忘れられず、いまだにこう呼んでいます。そして、今でも息子の“おかしな人ランキング”のベスト・テンに母(私ですが)と共にいつも名を連ねています。まあ、いまさらいうまでもなく、やっぱり悠紀さんは教会の『吉本興業』だよ。悠紀さんは今は何といても“孫の和奏(わかな)ちゃんが超～かわいい”そう寝ても覚めてもわかたんのことを考えてる毎日だそうです。わかたんはこんなおかしな“ババ”がそばにいてくれて幸せだよ。また悠紀さんの瀕死の白鳥が見たいなあ～！はじめて教会学校に来たお友だちもうわさの“ヒンシ”が必ずまた見られることをお祈りしてね。(鉄人加藤ちぐさ 記)

柏 真祈 (かしわまき)

あんなにしっかりと優しくすてきな真祈ちゃん先生はどのように育ったのでしょうか？今回は真祈ちゃん紹介ならぬ、真祈ちゃん徹底解剖編です！

さて、真祈ちゃんはどのようなご家族の中で、どのような幼少時代を過ごしたの

でしょう。

真祈ちゃん：家族は仲良かったと思います。やりたいことはやらせてもらったので、のびのび育ちました。身長は高い方でした。記者談 うーん、想像するだけで微笑ましいご家族の情景が目には浮かぶ。ご夫婦円満がカギかな。

教会学校にはいくつのころから来ていたのですか？

真祈ちゃん：お母さんのおなかの中にいたときからです。

教会学校時代の思い出に残るできごとは？

真祈ちゃん：キャンプです。特に大島に行ったときはいつもと違って、印象に残っています。記者談 同年代の仲間と語り合う（まくら投げはしない・・・？）貴重な経験でしょうね。

社会人生活も3年目、楽しさ、大変さを教えてください。

真祈ちゃん：大変なことは周りから甘やかされなくなったこと。楽しさは仕事ができるようになってきたことかなあ・・・記者談 そうでしょう！勉強熱心な真祈ちゃんのことだから、すっかり中堅。職場の真祈ちゃんものぞいてみたいな。

最後に趣味を教えてください。

真祈ちゃん：ピーズのアクセサリー作り。4か月前くらいからお母さんとハマってます。記者談 わー、いいな、いいなあ。母と娘で手芸。そばで、明るいお父さんが「真祈ちゃん、ぼくにも作ってね。」なんて・・・娘を持つ母としても、真祈ちゃん先生は理想の娘。教会学校の子もたちのあこがれのお姉さん。そんな真祈ちゃんを育てたご両親は私の目標です！（尚、この記事は早坂美奈子記者がお届けしました）

加藤ちぐさ（かとうちぐさ）

いつも明るいちぐさ先生は分級のムードメーカー。趣味は体脂肪の燃えない？ジョギングという言葉通りよく走っている姿を見かけます。月に1回分級で行われている間違いさがしでは子どもより張り切っています。今年5年生の絵美ちゃんとは仲良し親子。私も将来娘ができたならあんな関係になりたいなあといつも思っています。また、数々の名言（迷言？例：キャンプでのお祈り“よく寝むれますように” “安らかに眠れますように”）が印象深く残っており、いつも教会学校を盛り上げてくださっています。（柏 真祈 記）

早坂美奈子（はやさかみなこ）

私が見た早坂先生はご自分を削ってでも（だからとっても細くてスマート）人が困っている時、すぐに助けにかけつける（私も何度も助けられたことが...）優しく、きめ細かい配慮の持ち主で、おまけに勉強好きの努力家で、ついでに工作も絵も字もすべて人並みはずれて上手なお母さん先生です。あっ!!そうそう、お料理も抜群で、早坂家の名物料理はせんべいご飯とせんべい汁です。初めて食べた時の私はそのおいしさにびっくり仰天!!皆さまも一度おためしくださいませ(何が何でも早坂

家に行く必要があります)。家族構成は、真面目で優しいご主人様と今年中学1年になった、釣り好き、虫好き、ママ好きの央希くん、少学4年のしっかり、きっちり、ぼっちゃん、かわいい祝ちゃんの4人家族です。2人ともに、幼稚科の時から休まず教会学校に通っている貴重な頼もしい生徒です。現在、日曜日は教会学校の先生をし、週日は、LD 発達障害センターで非常勤で働いておられ、LD教育士の資格を取るため日夜勉強に励むウルトラママさんです。そんな先生と一緒に教会学校で学べることも嬉しいです。(“ババ”で嬉しい稲津悠紀 記)

注. LD：英語の Learning Disabilities の頭文字を取ったもので、日本では一般に学習障害と訳されています。現在、LD 教育士は特別支援教育士と呼ばれています。

〔5・6年科〕

森本 成（もりもとおさむ）

教会学校の校長として、今年が7年目になります。昨年も、今年も「来年度は校長をどなたかに替わって頂きたい」と、ご希望をおっしゃいましたが、誰にもとりあってもらえず、校長の願いは無情にも却下されました。でも、そこは校長、気を取り直して4月からまたフレッシュな気持ちで、今年も楽しくより良い教会学校にすべく、神様に祈りつつ、より頼みつつ、スタートしました。日曜日には、今まで通り、朝早く自転車で颯爽と、教会への道を走ります。

さて、もりもっちゃんのプロフィールは、皆さまほとんどの方がおわかりと思います。昨年と今年で特筆すべき点、変化は私の見る限りでは、ほとんどございません（何か少しは書かなければまずいかなーということ）。森本先生は、教会学校を率いる校長として、教師として、聖歌隊リーダーとして、教会役員として、大人の聖歌隊メンバーとして、ハンドベル・リンガーとして、すべて（おでこやおつむを含む）にいよいよ磨きがかかっていらっしやることを強く感じます。ピッカピッカに!!（長年の相方・安田雄子 記）

安田雄子（やすだゆうこ）

今年の4月で寅年ウン歳を迎えたやさし～安田先生は教会学校の「おかあさん」とオ～昔から呼ばれています。CS教師の中では、教会にもっとも近い所に住んでいます。お陰で、何かあるとすぐ教会に呼び出されます。月1回の子ども会のレギュラーとしてピラ作成から配布、さらに歌やお話でも大活躍です。またこれも月1回の絵本大好きの会でレギュラーとして、絵本の準備や朗読、その他の雑務で頑張っています。もちろん教会学校の先生として毎週日曜日にはみんなの聖書の学びを助けてくれます。おまけにピアノのレッスンにも通っていて礼拝で奏楽する讃美歌を練習しているそうです。その他、教会のハンドベル・クワイアでも活

躍しています。まだまだあって、校長も知らない裏教師会とも呼ばれるマル秘“ゆんたく” (NHK-TVドラマちゅらさん用語)、さらにはたまに誰かのおかみさんの誘いにのって、あちらこちらと遠出して“お茶”しにいたりしているとか。これだけでも大変多忙な日々を過ごしていそうですね。勿論、主婦として炊事や洗濯さらにお買い物など家事は当たり前。それでいて、けっこう深夜までテレビみたりしているわりには、早起きだそうです(朝食を出せと猫に起こされる)。いったいどうなっているのでしょうか。なにか秘密がありそうです。元気ハツラツ!オロナミンCという手もありますが、密かに美貌を保つコエンザイムQ10,驚異的ビタミンC含有のアセロラ,無限活力の源と呼ばれるアミノ酸飲料,食物繊維豊富なひじき,きくらげや,フコイダン効果の決定版もずく,などを摂取しているとか。仕上げは永遠の若さを保つ抗酸化作用の代表選手,ポリフェノール満載赤ワインをチビリ,チビリいやグビリとやっているらしい。毎度のことですが真偽の程は定かではありません。よい子のみなさんは絶対に真似をしないでくださいね。

(森本 成 記)

〔中・高科〕

大木怜子(おおきさとこ)

大木怜子姉は私と同年であり同級生。浜須賀小学校・第一中学校と9年も一緒の学校に通っていたが、不思議なことに一度も同じクラスになったことがない。誕生日も私と8日しか違わない。父親同士も同年で彼らの誕生日は9日違っている。夫の大木兄は、これまた父親同士が同じ会社の先輩・後輩という関係なので、旧知の間柄で、2人が結婚した時は驚きであり、喜びであった。怜子ちゃん(昔からこう呼んでいた)は結婚後、聖路加国際病院で白衣まぶしく心電図や脳波をとっていたバリバリの理系キャリアウーマンであった。結婚後、夫の仕事の関係で東京、川崎、シンガポール、横浜などを転居し、2002年に茅ヶ崎に戻ってきたが、その間に養われた「人生を豊かに過ごす方法」-聖書の知識や家事のやり方-などは尊敬に値するものである。料理、手芸、そして何より『片付け術』はプロの腕なみで、そのあたりの能力の著しく欠ける私には、ただただ脱帽といった感じである。怜子ちゃんの家に行けば、すべてがきちんと整理されており、部屋の装飾品はほとんど手作りで、出される食事はマジでうまい! 怜子ちゃんがジュニアの先生になり、CSの子どもたちと接する機会が増えたことは、子どもたちにとって、いや教会全体にとってラッキーである。去年は私がいかにあまりにもテキトーだったから、生徒諸君、大木先生から色々な事を吸収せよ!

(この原稿をやっとパソコンで作成できて嬉しい弓桁あずさ 記)

弓桁あずさ(ゆみけたあずさ)

弓桁あずさ先生とは、小学校の時から同窓生ですが、あずさ先生は、小学校の時から

まったく変わっていません。授業中も大きな笑い声が...と思うと...隣のまたお隣の教室のあずさ先生の声....!!でも皆納得(やはり)。天性の明るさと、そして頭脳明晰 はいつも周りを明るくしてくれます。今は、教会学校の、そして教会のリーダー的存在。これからもよろしくね!! (大木怜子 記)

注. 頭脳明晰:ずのうめいせき = 考えがはっきりしていること。

〔成人科〕

飯田純子 (いいだすみこ)

飯田先生は、私がまだまだ足元にも及ばないベテラン先生です。私が休んだ時や、成人科の生徒さんたちや教会に集まってくる子どもたちでも必ず手紙を書いて元気づけてくださるすばらしい先生です。飯田先生の話は味わい深く、聞いていて「アッ、なるほど。そういうことなのか」とわかりやすく聖書について語ってくれます。最近では健康を考えて血栓予防食品を食べているそうです。飯田先生の得意は何といっても小柳ルミ子の「おひさしぶ〜り〜ね〜」の物まねです。

(古川盛弘 記)

注. 数年前のクリスマス祝会教師劇でお久しぶりに現れた白装束のスミ天使役を演じてこの曲を歌い大ウケした。現在この芸は封印しているとのこと。

古川盛弘 (こがわもりひろ)

長身の古川先生ですが、身边に大きな風ではばたく、心地よい微風を漂わせています。いつも物静かでゆったりしています。先生が口を開くときは、聞き逃さないように、特に注意して耳を傾けるようにしています。多くを語らず大事なことや中心点をさりげなくお話するからです。ついこの間、教会で結婚式を挙げられたと思ったら、早くも5年経ちました。(八巻智枝 記)

古川先生は成人科の先生としていつも落ち着いて物静かです。女の先生たちに押されてしまうので私は反省しています。今年は古川先生にもっと声を出して頂こうかなと思います。一年の始まりどうぞ神様が祝福して下さり、みのりがありますように。(飯田純子 記)

八巻智枝 (やまきちえ)

今年4月から八巻先生という新しい先生が加わって下さいました。大木先生がジュニア(中高科)へ行かれて、奇しくも八巻先生は1年間教会学校をお休みして、その前まで中高科の先生をしていたので、とても深い信仰で含蓄のあるお話をして下さるので、とても頼もしいです。(飯田純子 記)

八巻先生は、今年から教師に復活して下さいました。昨年度までは大木怜子先生でしたが、ジュニアにいつてしまったので、そのかわりに成人科に来て下さい

ました。優しく、笑顔のすばらしい先生です。聖書の事も飯田先生に負けず劣らずいろいろ知っています。八巻先生は果物とお花いじりが大好きです。今年も成人科を盛り上げてほしいと思っています。(古川盛弘 記)

〔CS 聖歌隊〕

森本 成 (もりもとおさむ)

讃美の大好きな森本先生は何年も何年も、誰も来なくても朝 7 時半には準備をして待っていてくださっています。今は小学生の女の子が 4 人が来てくれて、とても楽しく讃美する時間が与えられています。CS 聖歌隊ライブラリーに加える曲探しを日夜しておられます。そのご努力には感謝します。今年度も神様に大きな美しい讃美の歌声をお捧げしたいですね。大人の方も朝 8 時に、大声を出しにいらっしゃいませんか？ヒゲのモリモッチャンが待ってま～す。

(奏楽担当・安田雄子 記)

安田雄子 (やすだゆうこ)

聖歌隊は礼拝前に翌月の礼拝で讃美する曲を練習しています。安田先生は朝早くから来て、ピアノ伴奏を担当しておられます。礼拝での讃美は当日の朝に決めるので、みなさんが教会に集まる前に安田先生はピアノ伴奏の練習をします。すこしお茶をのんでいると聖歌隊のお友だちが集まってきます。安田先生はみんなのノートに出席シールを貼って、お菓子をくれます。それから来月の讃美歌を練習します。みなさん、早起きしたら聖歌隊に是非とも参加してください。

(森本 成 記)

〔フリー〕

熊谷 徹 (くまがいとおる) 牧師・熊谷麗子 (くまがいわいこ) 牧師夫人

先日、テレビで皇太子が 1 つの詩を紹介しておられました。それを聞いて、「あれ？これ、どこかで聞いたことある!」と思いました。あちこち搜したところ、小さな紙切れを見つけました。「あった！これだ!」…。すっかり茶色く変色したその紙切れに記されていたのは、こういう詩です。

《批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします。敵意に満ちた中で育った子は誰とでも戦います。ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります。ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります。心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります。はげましを受けて育った子は自信をもちます。ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります。公明正大な中で育った子は正義心をもちます。思いやりのある中で育った

子は信仰心をもちます。人に認めてもらえる中で育った子は自分を大切にします。仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます。-ドロシー・ロー・ノルト 作/吉永宏訳-》

私たちがこの詩に出会ったのは、子育てに行き詰ったり悩んだり、苦闘していたときでした。何十年もこの紙切れを大切に保存していたのは、この詩によほど助けられ、教えられ、励まされたからなのだと思います。

この詩に流れている根本精神は、子どもに対する無条件の愛・アガペーの愛だと思います。そのような愛は、主イエスから与えられるものです。主イエスから愛をいただいて、子どもたちを愛で包んであげたいものですね。主イエスはこういっておられます。「幼な子たちを私のもとに来させなさい。彼らを妨げてはいけません。神の国はこのような者たちのものだからである。アーメン、私はあなた方にいう。幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこに入ることは決してできない」-マルコ 10:14,15 私訳- (熊谷 徹 記)

注. Dorothy Law Nolte:1924年ロサンゼルス生まれ、ミネソタ州立大卒。英国国立聖職大学・博士号。ベストセラー「子どもが育つ魔法の言葉」を著した子育てコンサルタントの第一人者。

【教会学校のこれからの予定】

6月19日父母の日礼拝 午前9時より

みなさんのお父さんやお母さんをお招きして一緒に礼拝をいたします。参加者プレゼントもあります。夏期学校のご案内もいたします。是非ご参加ください。

7月23～25日夏期学校・奥多摩福音の家

JR 青梅線の古里駅から徒歩7分にある奥多摩福音の家にて本年度も夏期学校を開催いたします。幼稚科から成人までを対象として、多摩川の上流、緑豊かな山々に囲まれた静かな場所で、聖書の学びとゲームやバーベキューなどを計画しています。みなさまのご参加をお待ちしております。

参考 リーベンゼラ日本宣教団「奥多摩福音の家」〒198-0105 東京都奥多摩郡奥多摩町小丹波 135 0428-85-2317 <http://www1.odn.ne.jp/ofi>

編集後記 (May, 1st, 2005 Updated)



今期は教師陣に八巻姉が復帰されて昨年より一層元気のある教会学校になりました。クラス担当も少し変わりました。教師の平均年齢は上がる一方ですが、豊かなというより特異な個性で今期もがんばろうと思います。各先生のプロフィールをお楽

しみください。執筆者の人柄もわかるので 2 倍楽しめます。教会のホームページにもこの教会学校だよりが掲載されますので是非ご覧ください。写真はホームページを管理しておられる稲津五十吉兄に担当していただきました。(森本)

